

自己託送制度を活用しエネルギーバランスを最適化

株式会社日本キャンパック(以下、日本キャンパック)、日立キャピタル株式会社、株式会社日立製作所(以下、日立)の3社は、自己託送制度^{※1}を活用して、複数拠点のエネルギーを一括管理・最適化することにより省エネを実現します。

※1 企業が工場などの自家発電設備で作った電力を、離れた場所にある自社の他の拠点に系統網を介して託送する仕組み



年間消費エネルギー量、CO2排出量を各16%削減

国内トップクラスの飲料受託充填企業である日本キャンパックは、各工場単位でのエネルギー最適化に取り組んできましたが、製品品目や生産量の変動によりエネルギー需給のアンバランスが課題となっていました。今回、群馬第1工場に新たに大型コージェネ設備を導入し、自己託送制度を活用して、発電した電力の一部を赤城工場に託送することで、同社4工場のエネルギーバランスを最適化しました。

また、統合エネルギー・設備マネジメントサービス「EMilia」を導入し、離れた場所にある複数拠点のエネルギーを一括管理・制御するとともに、煩雑な自己託送運用の自動化を実現します。これにより、日本キャンパックは4工場合わせて、年間消費エネルギー量16%、CO2排出量16%削減^{※2}を実現します。

なお、導入したコージェネ設備は、日立グループが資産を保有するエネルギーサービス事業にて運用しています。

※2 群馬第1工場へのコージェネレーションシステム導入前との比較



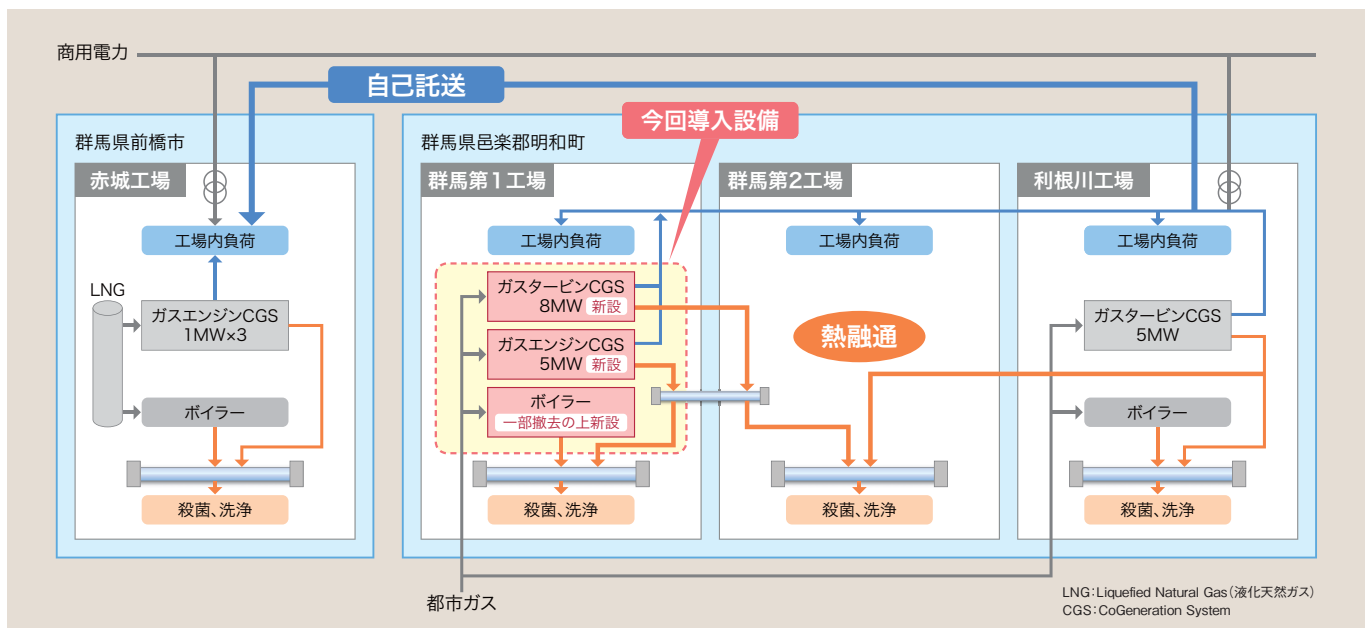
自己託送設備の全景

「コージェネ大賞 2017」で産業用部門「理事長賞」受賞

これらの成果が高く評価されたことにより、「企業内複数工場間の自己託送を活用した熱・電エネルギーリバランスの実現 ～日本キャンパックの改善事例～(群馬県邑楽郡)^{おうら}」で、一般財団法人 コージェネレーション・エネルギー高度利用

センター主催の「コージェネ大賞 2017」産業用部門「理事長賞」を受賞しました。

今後も日立は、省エネと環境負荷低減で低炭素社会の実現に貢献していきます。



日本キャンパック4工場におけるエネルギー融通の概要

お問い合わせ先・情報提供サイト

(株)日立製作所 産業・流通ビジネスユニット
http://www.hitachi.co.jp/products/infrastructure/product_site/urban/energy/